

# 平成24年度病害虫発生予察特殊報第1号

平成24年7月23日  
栃木県農業環境指導センター

## TSWVによるりんどうの病害について

1 病原ウイルス：トマト黄化えそウイルス(*Tomato spotted wilt virus*: TSWV)

2 作物名：りんどう

3 発生経過

平成24年5月、県北部の施設栽培りんどうほ場において、葉先の枯れや輪紋、株の萎縮などを呈する株が発生した。本症状について、本県農業試験場病理昆虫研究室と当センターにおいて、RIPA法及びRT-PCR法によりウイルス検定を行った結果、トマト黄化えそウイルス(*Tomato spotted wilt virus*: TSWV)であることが確認された。なお、本ウイルスは、県内ではきくにおいて平成9年に発生が確認されているが、りんどうでは国内における本ウイルスの発生報告はない。

4 病徴

主な症状として、葉では、特徴的な同心輪紋状の退緑輪紋(図1)や、白色のえそ輪斑(図2)を生じる。症状の激しいものでは、株全体が萎縮する(図3)。



図1 葉の退緑輪紋



図2 葉の白色えそ輪紋



図3 萎縮した株

## 5 病原ウイルスの性質及び伝染

T S W Vは、ブニヤウイルス科トスポウイルス属のウイルスである。虫媒伝染性のウイルスであり、幼虫期にウイルスを獲得したアザミウマ類（ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマなど）が持続伝搬するが、経卵伝染はしない。種子伝染、土壌伝染及び通常の管理作業における汁液伝染はしない。

## 6 感染植物

野菜や花きを中心に、キク科（レタス、きく、ガーベラ）、ナス科（トマト、ナス、ピーマン）、マメ科（ラッカセイ）、アカザ科（ほうれんそう）など650種以上の植物に感染することが報告されている。

## 7 防除対策

- (1) 媒介虫であるアザミウマ類の防除を行う（表1）。
- (2) 施設開口部に防虫ネットを張り、アザミウマ類の侵入を防ぐ。
- (3) 青色粘着板を設置し、アザミウマ類を捕殺するとともに、発生状況を確認する。
- (4) ほ場内外の除草を行い、アザミウマ類の生息場所をなくする。
- (5) 発病した株は速やかに抜き取り、ほ場外で埋設するか、ビニル袋等で密封し枯死させてから処分する。
- (6) 本ウイルスの寄主範囲は広いいため、施設内に栽培目的以外の野菜や花きなどを持ち込まない。

表1 りんどう及び花き類・観葉植物のアザミウマ類に登録のある主な薬剤  
(平成24年7月19日現在)

薬剤系統	薬剤名	適用作物名	適用害虫名	使用倍率等	使用時期/使用回数
有機リン	ジェイエース粒剤	りんどう	アザミウマ類	2g/1株	発生初期/5回以内
	オルトラン粒剤	花き類・観葉植物	アザミウマ類	3～6kg/10a	発生初期/5回以内
	オルトラン水和剤	花き類・観葉植物	アザミウマ類	1000～1500倍	発生初期/5回以内
	トクチオン乳剤	花き類・観葉植物 1	アザミウマ類	1000倍	発生初期/5回以内
合成ピレスロイド	トレボン乳剤	りんどう	ヒラズハナ アザミウマ	2000倍	- /6回以内
	スカウトフロアブル	りんどう	ヒラズハナ アザミウマ	2000倍	- /5回以内
ネオニコチノイド	アクタラ顆粒水溶剤	花き類・観葉植物 2	ミカンキイロ アザミウマ	1000倍	発生初期/6回以内
その他	アフーム乳剤	花き類・観葉植物	ミカンキイロ アザミウマ	2000倍	発生初期/5回以内
	オンコル粒剤5	花き類・観葉植物	アザミウマ類	6kg/10a	生育期/3回以内
	ハチハチフロアブル	花き類・観葉植物	アザミウマ類	1000倍	発生初期/4回以内
	コテツフロアブル	花き類・観葉植物 3	ミカンキイロ アザミウマ	2000倍	発生初期/2回以内

- 1 ばら、きく、プリムラ、シクラメン、ペゴニア、宿根かすみそうを除く
- 2 宿根アスター、トルコギキョウ、きくを除く
- 3 きく、ストックを除く

詳しくは、農業環境指導センター(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>)までお問合せ下さい。

Tel (028) 626-3086 Fax (028) 626-3012